

## おひとりさま事例集（2） ～絶縁状態の妹との関係～

今回の登場人物は、西田誠さん（80）と西田恵子さん（78）ご夫婦と、恵子さんの妹・北本道子さん（76）です。

西田恵子さんと北本道子さんは、幼い頃より大変仲の良い姉妹でした。ところが、姉妹の父親が亡くなったときの相続において、話し合いによる遺産分割協議が決裂し、裁判所に持ち込まれる事態にまで拗れてしまい、それ以降、修復不可能なほどの絶縁状態になってしまいました。



妹の北本道子さんは、未婚で子供もいませんでした。ある日、恵子さん宛てに、病院のソーシャルワーカーから連絡があり、妹の道子さんが自宅で倒れたところをケアマネージャーに発見され、緊急搬送されたとのことでした。

道子さんにとって、親族といえる人は恵子さんご夫婦しかいません。しかし、急な脳梗塞で倒れてしまった道子さんは、後遺症により寝たきり状態で発語もできず、自分で食事を摂ることも出来ない状況になってしまいました。今後の療養場所の決定や、医療上の判断、医療費の支払い、亡くなった後の葬儀・納骨など、道子さんはもう自分では決断したり実行したりすることが出来ませんから、親族である恵子さんご夫婦に、道子さんの今後のことのすべてを対応してもらえないかという依頼があったのです。

恵子さんご夫妻は、とても悩みました。すでに判断能力を喪失してしまっている妹ですが、父親の相続で揉めたときに妹から受けた罵倒、夫の誠さんにまで酷い口調で罵られたこと、第三者まで巻き込んで嫌がらせを受けたこと、それにより恵子さんは鬱病を発症し、誠さんのおかげでようやく近年になって回復してきたことを思えば、今から、その妹の面倒を見なければならぬということは、ご夫婦にとって精神的に大きな大きな負担となります。

一方で、やはり人として唯一の親族として、最低限のことはやらなければならない、自分たち夫婦が引き受けなければ、他の人に迷惑を掛けてしまうという心配がありました。

そこで、私たち OAG ライフサポートが、西田さんご夫妻から依頼を受けることになりました。妹の道子さんのご存命中は、病院とのやり取り、転院手続きなどすべてを代行し、半年後に道子さんがお亡くなりになった後は、葬儀から納骨、その他の死後事務手続きをすべて執り行いました。

その間、西田さんご夫妻は、一度も妹の道子さんにお会いにはなりませんでしたが、寂しい気はしますが、私たちは、ご依頼者様に徹底的に寄り添う支援を心掛けています。きっと、恵子さんの心の健康を守るためには、そうせざるを得なかったのだと思います。